

# 続・カモシレナイとニチガイナイの異質性

——コーパス調査の結果から——

杉村 泰

キーワード コーパス、共起関係、推量文、カモシレナイ、ニチガイナイ

## 1. はじめに

一般に「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」は、蓋然性の高低を表し分ける一対の表現として扱われている。これに対し、杉村（2001b）では両者は単なる蓋然性の高低ではなく、「認識」と「推量判断」という質的に異なる側面から蓋然性を規定していることを主張した。本稿の目的は、コーパス調査の結果をもとにこの主張を裏付けることにある。

従来、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」は蓋然性（事態成立の可能性の度合い）を表す表現として位置付けられ、前者はその程度が低いこと、後者はその程度が高いことを表すとされてきた。<sup>1)</sup>すなわち、両者は蓋然性の高低という「量的」な側面でのみ対立し、「質的」には同じ蓋然性を表す一対の表現として捉えられてきたのである。

一方、木下（1999）は、「カモシレナイ」は「推論」の帰結の中に、唯一際立って「可能性」が高い（低い）ものがない（「可能性」が分散している）ことを表し、「ニチガイナイ」は「推論」の帰結の中に、唯一際立って「可能性」が高いものがある」ことを表すと主張した。しかし、木下（1999）も、両者をともに「可能性の分散の有無」を表すものとして、「質的」に同じものと考えている点では他の先行研究と同じである。

これに対し、杉村（2001b）では、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」には単なる「量的」な違いでは説明できない「質的」な違いのあることを主張した。従来、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」は話し手の未知推量を表す文、すなわち推量文において比較されることが多かった。しかし、推量文以外にも目を向けると、「カモシレナイ」が様々な文に使われるのに対し、「ニチガイナイ」は推量文以外には使いにくいことが分かる。

- (1) 推量文
- a. この人は明日死ぬカモシレナイ。
  - b. この人は明日死ぬニチガイナイ。
- (2) 一般的事実を述べる文
- a. 宝くじというものは当たるカモシレナイし、当たらないカモシレナイものだ。
  - b. \*宝くじというものは当たらないニチガイナイものだ。
- (3) 想起文
- a. 私は子供のころ外で遊んだことはなかった。たまには散歩でもしたカモシレナイが、記憶には残っていない。
  - b. \*私は子供のころ外で遊んだことはなかった。たまには散歩でもしたニチガイナイが、記憶には残っていない。
- (4) 伝聞文
- a. 雨が降るカモシレナイそうだ。
  - b. ?雨が降るニチガイナイそうだ。
- (5) トイウの補文
- a. この人は明日死ぬカモシレナイというのにいまだに創作意欲がある。
  - b. \*この人は明日死ぬニチガイナイというのにいまだに創作意欲がある。

こうして、杉村(2001b)では、「カモシレナイ」は話し手の「認識」、「ニチガイナイ」は話し手の「推量判断」という「質的」に異なる側面から蓋然性を表す表現であることを主張した。<sup>2)</sup>

「カモシレナイ」：当該の事態の成立が不確実で、他の事態の成立する可能性もあると認識したことを表す

「ニチガイナイ」：話し手の確信により、当該の事態の成立が確実であると推量したことを表す

ここでいう「認識」とは話し手がある事態の成立を見たまに捉えたり、記憶のままに捉えることを指す。たとえば、ある人物の性別について見たままに「男だ」とか「女ではない」と捉えるのが「認識」である。一方、「推量判断」とは認識が不確定の場合に話し手の推論によって一つの帰結を導き出すことを指す。たとえば、ある人物の性別が不明な場合に、推論によって「男のようだ」とか「女らしい」と捉えるのが「推量判断」である。これらはまず「事態」があり、次に事態に対する「認識」があり、認識が不確定の場合に「推量判断」

が行なわれるという関係にある（図1）。



図1 認識と推量判断

## 2. 真偽判断と当為表現

次に真偽判断と当為表現の関係について論じる。益岡（1987）は「ヨウダ、ラシイ、ニチガイナイ、カモシレナイ、ダロウ」などを「真偽判断のモダリティ」、「ベキダ、ホウガヨイ、テモヨイ、ナケレバイケナイ、テハイケナイ」などを「価値判断のモダリティ」と呼び、ともに「判断のモダリティ」に属すとした。益岡（1991）は真偽判断と価値判断はパラディグマティックな関係にあるとして、次のように説明している。

真偽判断と価値判断は基本的に相互排除の関係にある。一文において、一方を選べば他方は選ばれないということである。これは、二者が蓋然性と当為性という異なる領域に属する事柄を表現することに起因する。このように相互排除の関係にあるということは、両者が範列的な関係（‘paradigmatic’な関係）にあるということでもある。これら2つのカテゴリーに共通して「判断」の名を冠する理由はこの点に存するのである。

（益岡1991：54）

ところが、一方で益岡は「価値判断の二次的モダリティの形式に真偽判断の形式が接続することは十分可能である」（p.58）とも述べ、(6)の例を挙げている。

(6) オムレツは出来たてをたべるべきだろう。（益岡1991：58）

こうした例が特殊なものであるならば例外として扱うこともできる。しかし、このような例は(7)のようにいくらかでも存在する。

- (7) a. オムレツは出来たてをたべるベキ {カモシレナイ/ノヨウダ/ラシイ}。
- b. オムレツは出来たてをたべたホウガイイ {カモシレナイ/ヨウダ/ラシイ}。
- c. オムレツは出来たてをたべテモイイ {カモシレナイ/ヨウダ/ラシイ}。

こうした事実により、益岡の言う「価値判断のモダリティ」と「真偽判断のモダリティ」は、パラディグマティックな関係ではなく、シンタグマティックな関係にあることが分かる。また、杉村（2001 a）では主観性判定テストにより、益岡の言う「価値判断のモダリティ」はモダリティではなく命題に属するものであることを主張し、「判断」という言葉を避け「当為表現」と呼ぶことにした。

ところで、一般に言われるように「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の違いが単に蓋然性の高さにあるだけならば、(7)の「カモシレナイ」を「ニチガイナイ」に置き換えても文法性判断は変わらないはずである。たとえば、「オムレツは出来たてをたべるべき」であるというコトの蓋然性が高いことを「ニチガイナイ」で表してもよさそうである。しかし、実際には「ニチガイナイ」は「ベキダ」や「テモイイ」と共起することができない。

- (8) a. \*オムレツは出来たてをたべるベキニチガイナイ。
- b. オムレツは出来たてをたべたホウガイイニチガイナイ。
- c. \*オムレツは出来たてをたべテモイイニチガイナイ。

こうした現象を見ると、一見対になっているかのように見える「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」も、実は区別して考えた方がよいことが分かってくる。

そこで次にコーパスを利用して、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の共起関係を見ることにする。これにより、両者が統語的に異なる現象を見せていることが明らかとなる。

### 3. コーパスによる共起調査

今回の調査ではインターネットのホームページをコーパスとして使用した。これを検索エンジンgooによってページ検索し、当該表現の出現数を比較した。インターネットの検索エンジンは、コロケーションの設定で制約が大きいが、ホームページという大規模のコーパスを対象に検索できるという点で有利である。(2002年8月29日実施)

#### 3.1 「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の出現比率

まずはじめに「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の出現比率を見ておく。両者の出現数（ヒットページ数）と出現比率は表1の通りである。

表1 「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の出現比率

「カモシレナイ」	ヒット数	「ニチガイナイ」	ヒット数	比率
かもしれない	1,469,582	にちがいない	261,954	5.6 : 1
かもしれません	1,297,581	にちがいありません	33,927	38.2 : 1
ているかもしれない	62,587	ているにちがいない	4,892	12.8 : 1
たかもしれない	1,121	たにちがいない	174	6.4 : 1

(注) 特に注記した場合以外は表中に示した形式のみを検索した。ただし、「ちがい」は漢字表記の「違い」も検索した。(以下同様)

表1を見ると、基本形の場合、「カモシレナイ」は「ニチガイナイ」の5.6倍出現していることが分かる。一般に「カモシレナイ」は「ニチガイナイ」に比べよく使われる表現であることが分かる。

次にマス形の場合、両者の出現比率は38.2対1で、その差は基本形の6.8倍にもなっていることが分かる。また、「カモシレナイ」の場合は基本形もマス形も同じぐらいの頻度で使われるが、「ニチガイナイ」の場合は基本形の方が7.7倍も多く使われていることが分かる。これは寺村(1984)の次の指摘を裏付ける結果となっている。<sup>3)</sup>

ニチガイナイは、ふつう確信の度合いが、ダロウやカモシレナイより強いと説明され、それはまちがいではないが、ニチガイナイの特徴は、自分の思案、推量を自分に確かめるような、独白的な使い方がふつうであるところにある。(寺村1984:235-236)

寺村(1984)はこれ以上説明していない。しかし、このことは「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の異質性を物語っていると思われる。本稿では「ニチガイナイ」は独白的に使われるため、話し相手の存在を前提とした丁寧表現の「マス」とは共起しにくいと考える。ただし、「ニチガイアリマセン」は出現比率こそ少ないものの、33,927件も出現したことからも分かるように決して珍しい表現ではない。「ニチガイアリマセン」は対話と言うよりはアナウンサーの言葉や文章など、独白的に相手に伝える場面で使われるといった特徴がある。

- (9) 今、監督署では、企業の夜逃げ倒産による立替払い業務や、安全衛生法による送検事案で必至です。本来、今現段階で行うべき、企業に対する監督指導はそっちのけな状態なのです。皆さん、このことを、近くの監督署に行って吠えてください。そうすれば、きっとその町は、割と住みやすい

環境になっていくにちがいません。

(<http://www2.s.biglobe.ne.jp/~otasuke/bbs10/213167814145894.html>)

### 3. 2 当為表現との共起

次に当為表現「ベキダ」、「ホウガイイ」、「テモイイ」との共起について見る。表2に示されるように「ベキダ」は「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」の後には来ない。

表2 「ベキダ」との共起

「ベキ〜」	ヒット数	「〜ベキダ」	ヒット数
ベキかもしれない	4,695	かもしれないベキ	0
ベきにちがいない	7	にちがいないベキ	0

「ベキダ」が前に来る場合、「ベキカモシレナイ」という表現は自然に成り立つ。

- (10) NTPについてはさらに専門の独立した分科会に分けることも考えるべきかもしれない (<http://www.janog.gr.jp/wg/timesync-wg-enki.txt>)
- (11) 子供達が満足しているんだったら、いいんじゃないんだろうか。他のボランティアにしてみても、相手が喜んでくれるものはこれからも続けていくべきだと思う。しかし、正直な気持ちでやらない偽善者の人達はやめておくべきかもしれない。 (<http://www.ous.ac.jp/DAC/odanaka/991/991ThD/991ThD12.html>)

しかし、上の「ベキカモシレナイ」を「ベキニチガイナイ」に置き換えると分かるように、「ベキニチガイナイ」は日本語として不自然な表現である。実際、コーパスからは7件しか出現せず、しかもそれらは不自然な日本語である。これらは「ベキデアルニチガイナイ」とすれば許容度が上がる。

- (12) 産経新聞で連載中の「日本よ」でも、「我々の隣の中国は軍事力を背景にした強引な拡張主義による脅威に加えて、彼等に内在している社会的な歪（ゆが）みのあまりの大きさのゆえに、私たちの生活にじかに関わる日本国内における治安の上でも極めて危険な要因となりつつあるという認識は国民市民として強く持たれるべきに違いない」と警告している。

([http://www.zakzak.co.jp/top/top0607\\_2\\_08.html](http://www.zakzak.co.jp/top/top0607_2_08.html))

- (13) 我々はなにゆえに彼らを愛したかを、もう一度自らに問いなおすべきに

違うない。(http://www.usedboat.or.jp/CharterCruise/m-crewcontract.html)

同様に「ハウガイイ」も「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」の前には来るが、後には来ない。

表3 「ハウガイイ」との共起

「ハウガイイ～」	ヒット数	「～ハウガイイ」	ヒット数
方がいいかもしれない	15,736	かもしれない方がいい	1
方がいいにちがいない	138	にちがいない方がいい	0

(注)「方がいい」は「ほうがいい」、「方がよい」、「ほうがよい」の形も検索した。

コーパスには「カモシレナイハウガイイ」の例が一つだけ現れる。しかし、これは『「これから聞くかもしれない」という方がいい』の「という」が省略された表現であると考えられる。

- (14) 8割の方が聞いたことのないという玲子の番組、「世界の車窓から」(ステージ袖から、玲子の「違う」という声が聞こえる(笑))もよろしく。8割の人が聞いたことないってことで玲子は残念がってたけど、8割の人がもう聞かない、って言うよりこれから聞くかもしれない方がいい。

(http://www2.netwave.or.jp/~nisisaka/html/hanashikasyuu/repo/with\_you.htm)

一方、「ハウガイイ」が前に来る場合は、「ベキダ」と違い「カモシレナイ」だけでなく「ニチガイナイ」との共起も見られる。ただし、「ニチガイナイ」との共起はやや不自然で、「～ハウガイイニキマッテイル」や「～ハウガイイハズダ」を使った方が自然であると思われる。

- (15) 案外ふぐかもしれない こいつ毒かもしれない でもうまいかもしれない  
い けど、気をつけた方がいいかもしれない

(http://www2.wbs.ne.jp/~mgland/contents/fugu.html)

- (16) しかし、昔であればタダで住み続けられたはずのものが、地価の上昇によって負担が増加することには違いない。ところが、その土地に住み続ける限り、相続税がゼロであろうとも多額支払っても、どちらにせよ住む場所は一緒なのであるから、そこから得られる“住む”という意味での便益は何ら変わらないはずである。とすれば、地価は安い方がいいに違いない。

(http://www1.sphere.ne.jp/curio/economic/property.htm)

また、「テモイイ」は「カモシレナイ」の前には来るが、後には来ない。

表4 「テモイイ」との共起

「テモイイ～」	ヒット数	「～テモイイ」	ヒット数
てもいいかもしれない	584	かもしれなくてもいい	1
てもいいにちがいない	2	にちがいなくてもいい	0

(注)「てもいい」は「てもよい」の形も検索した。

コーパスからは(17)のように「カモシレナクテモイイ」の例が一つだけ現れる。しかし、普通は「独り善がりカモシレナイけどいいじゃないですか」のように言うのではないかと思われる。

- (17) 相手の何気ない仕草のひとつひとつに『ドキッ!』と胸ときめいたり・・・目があっちゃったりした瞬間は胸『ドキドキ』落ち着け心臓!!  
 ところのなかでつぶやいたりしてね。独り善がりかもしれなくてもいい  
 じゃないですか、人ときめく気持ちがあったほうが、毎日が楽しくて～  
 ♪ (<http://www.okweb.ne.jp/qa/00037/qa00037212.html>)

一方、「テモイイ」が前に来る場合、「カモシレナイ」との共起は自然に成り立つが、「ニチガイナイ」との共起は不自然である。「ニチガイナイ」は「ダロウ」に置き換えると自然な文になる。

- (18) 明日できることは、今日しない。明日になればやらなくてもいいかもしれない。  
 ([http://www.1350.jp/tabegoro/p\\_tera.htm](http://www.1350.jp/tabegoro/p_tera.htm))
- (19) きっと例のつぶされている1PINは使わなくてもいいに違いないとぎゅっと曲げて強引にコネクターを装着しました。  
 (<http://www.nifty.ne.jp/forum/fgateway/gwfaq2/etc/mb.html>)
- (20) 『さわらぬ神に祟りなし』、この書類はきっと今日じゃなくてもいいに違いない、と思ひこむことにしてさっさと踵を返した。  
 ([http://www16.u-page.so-net.ne.jp/sb4/hibiki\\_k/repuest7000.htm](http://www16.u-page.so-net.ne.jp/sb4/hibiki_k/repuest7000.htm))

以上、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」は当為表現との共起において並行的でないことを見た。

### 3. 3 否定表現との共起

次に否定表現「ナイ」との共起について見る。表5に示されるように、「ナイ」は「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」の前には来るが、後に来ることはほとんどない。

表5 「ナイ」との共起

「ナイ～」	ヒット数	「～ナイ」	ヒット数
ないかもしれない	156,789	かもしれないくない	25
ないにちがいない	6,274	にちがいないくない	0

「カモシレナクナイ」という表現はコーパスから25件出現した。しかし、これらの表現は次のように不自然な日本語である。

- (21) ですが、60歳になって「おっさん」といわれてキレルほうが常識がないのではないかと思うのですが、というかむしろ喜ぶべきことかもしれないくないですか？下手したら「じいさん」ですからな。

(<http://www.kasahara.elec.waseda.ac.jp/osakabe/news/2002/01/12/>)

- (22) 今日はデジモンフロンティアっていう「まあ、オタクなら知ってるよね」程度のデジモンシリーズ第4弾の話で、テニプリと何の関係もないのでつまらないと思われる。でもオタク的感想なのでつまらないはないかもしれない。(何重否定だ) (<http://diary.cgiboy.com/tomoki/>)

「ナイ」が前に来る場合は、次のように自然な表現として成り立つ。

- (23) 「……元気になった時には、もう私は必要じゃないかもしれないよ」

(<http://www.interq.or.jp/blue/nory/honto.htm>)

- (24) 件の方はダンス至上主義者なのであろう。踊るのに忙しく、その耳には、音楽など、とどいてないに違いない。

(<http://www.salsa.org/wwwboard/messages-j/2025.html>)

以上、否定表現は「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」の前には来るが、後には来ないことを見た。

### 3. 4 真偽判断のモダリティ

次に真偽判断のモダリティ「カモシレナイ」、「ニチガイナイ」、「ヨウダ」、

「ラシイ」、「ダロウ」との共起について見る。まず表6に示されるように「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」同士の共起は、「カモシレナイカモシレナイ」以外はほとんど現れないことが分かる。

表6 「カモシレナイ」、「ニチガイナイ」との共起

「カモシレナイ～」	ヒット数	「ニチガイナイ～」	ヒット数
かもしれないかもしれない	352	にちがないかもしれない	6
かもしれないにちがない	1	にちがないにちがない	4

このうち「カモシレナイニチガイナイ」は次のような特殊なものであった。

- (25) 対象が人間の気持ちですので一朝一夕に作成出来るとは考えられないところですが、潜在しているかもしれない（に違いない） 当問題が顕在化しないうちに何らかのアクションを起こすことが肝要かと愚考致します。

(<http://member.nifty.ne.jp/kalshp/senshukai.htm>)

6件の「ニチガイナイカモシレナイ」のうち2件は(26)のように「～に間違いはない」の意味で使われている。残りの4件は(27)のように不自然な表現となっている。

- (26) 私の場合、ディズニーランドはディズニーランドに違いないかもしれないが、少なくとも、「千葉」と聞いた瞬間にそれはとても遠くに感じてしまう。(http://www2.plala.or.jp/totsu\_net/satsuki/tsure16-20.html)
- (27) 先の宿に泊まった者達は臓器を売られたり、バンコクに売りに出されるのであろう。勿論推測の域を出ないが、きっとそうに決まっているに違いないかもしれない。(http://ha2.seikyuu.ne.jp/home/shonen-j/chiangmai1.htm)

「ニチガイナイニチガイナイ」と「カモシレナイカモシレナイ」はともに冗長で不自然な表現である。ただし、後者は352件も出現することから、不自然ではあるが使われやすい表現であることが分かる。

- (28) いくらはきっとその叔父さんより体力がないに違いないに違いない。

(<http://isweb14.infoseek.co.jp/travel/ikuras/suitzland.html>)

- (29) 私だけかもしれないかもしれないけれど（と前置きをして）、オトコの場合は「家庭」や「オンナ」のニオイがしない人のほうがかっこよく見える

ように思う。(http://www.netcity.or.jp/A-Girl/Junco/19990525.html)

次に「ヨウダ」との共起関係を表7に示す。

表7 「ヨウダ」との共起<sup>4)</sup>

「ヨウ～」	ヒット数	「～ヨウダ」	ヒット数
ようかもしれない	(131)	かもしれないようだ	46
ようにちがいない	0	にちがいないようだ	24

「カモシレナイヨウダ」と「ニチガイナイヨウダ」はともに自然な表現として使われる。このことは「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」と「ヨウダ」の間にシntagマティックな関係の成り立つことを示している。

③0 これによりコジョンスは当初の予定より早くグラランドに復帰できるかもしれないようだ。(http://myhome.shinbiro.com/emika/report/reports9909-2.htm)

③1 テアルビジンはタンニンの一種でポリフェノールであるに違いない。と言うことは類似の食品にも多数含まれているに違いないようだ。

(http://www.gulf.or.jp/houki/essay/zuihitsu/tane/koutya.html)

次に「ラシイ」との共起関係を表8に示す。

表8 「ラシイ」との共起<sup>5)</sup>

「ラシイ～」	ヒット数	「～ラシイ」	ヒット数
らしいかもしれない	(430)	かもしれないらしい	(1,252)
らしいにちがいない	0	にちがいないらしい	16

「ラシイカモシレナイ」は430件出現したが、「めずらしいかもしれない」のような形容詞の一部の「らしい」や、「モルディブらしいかもしれない」のような接尾辞の「ラシイ」などが大量に含まれる。真偽判断の「ラシイ」の例もあるが、次のように日本語として不自然な表現である。

③2 久しぶりに来ました。腐ると来るらしいかもしれないのです

(http://chu.infoseek.jp/bbs/197/b19737V-1.html)

「カモシレナイラシイ」や「ニチガイナイラシイ」は次のようなものが出現

した。しかし、「アニメ向きカモシレナイ」、「欲しいピストンに間違いのないラシイ」と言った方が自然であると思われる。

- (33) べた塗り部の処理がキレイになってるみたいなのでアニメ向きかもしれないらしい。 (<http://sideblue.pobox.ne.jp/diary/200203.html>)
- (34) 念のため、車の形式名から検索してみたが、どうやら欲しいピストンに間違いらしい。 すぐ注文した。

(<http://homepage2.nifty.com/mas-i/engine/cylind03.html>)

最後に「ダロウ」との共起関係を表9に示す。

表9 「ダロウ」との共起

「ダロウ～」	ヒット数	「～ダロウ」	ヒット数
だろうかもしれない	22	かもしれないだろう	730
だろうにちがいない	23	にちがいないだろう	1,316

「ダロウ」は「カモシレナイ」や「ニチガイナイ」の後には来る。

- (35) 結局の所、UFOとは妄想と邪念に裏づけされた一種の“新興宗教”であるにすぎない。 あるいはアメリカ特有の社会病理と言えるかもしれないだろう。 (<http://www01.vaio.ne.jp/walkyure/unbelieved/ufu/ros05.html>)
- (36) 貴方にとって私は残酷な刃に違いないだろうにどうしてそんなに優しいのだろう (<http://www.fides.dti.ne.jp/nobuko/poem/2001/jyunsuini.html>)

しかし、「ダロウ」が前に来ると不自然な日本語となる。「ダロウ」か「カモシレナイ」、「ニチガイナイ」のどちらか一つでよい。

(37)

---

- (38) 外回りの実態を熟知している部長からみれば、「受付嬢をからかうヒマがあったら、一件でも多く契約をとってこい。」と内心思っているだろうに違いない。 ([http://www.hexagon-tech.com/COSMOS/palm\\_comemt.html](http://www.hexagon-tech.com/COSMOS/palm_comemt.html))

以上、真偽判断のモダリティとの共起について見た。

### 3.5 伝聞のモダリティとの共起

最後に伝聞のモダリティ「ソウダ」との共起について見る。仁田 (1991) は、「[~するかもしれないそうだ] に比べて、[~するにちがいないそうだ] は容認可能性がかなり落ちるものと思われる。「~ニチガイナイ」は、「~カモシレナイ」に比べて第三者の心的態度の表現になることは難しい」(p.61) として、両者の微妙な違いについて言及している。しかし、結局は両者を同じ「蓋然性の高低」を表すものとして議論を進めている。

しかし、本稿では「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の微妙な違いにもう一度注目してみたいと思う。

- (39) a. 雨が降るカモシレナイソウダ。
- b. ?雨が降るニチガイナイソウダ。

両者の違いは個人の頭で内省していると、だんだん分からなくなる。しかし、コーパスで実例を調べると、両者の違いが明確に現れる。

表10 「ソウダ」との共起<sup>6)</sup>

「ソウ~」	ヒット数	「~ソウダ」	ヒット数
そうかもしれない	(26,713)	かもしれないそうだ	236
		かもしれないそうです	1,123
そうにちがいない	(6,431)	にちがいないそうだ	4
		にちがいないそうです	2

表10に示されるように、「カモシレナイソウダ」は普通に使われるが、「ニチガイナイソウダ」はほとんど使われなない。これは「ニチガイナイ」が独自の使われる表現であることの証拠ともなっている。

- (40) ガイドの話では過去に数件の転落事故がおこっており、「呪いかもしれないそうだ。(http://www.org1.com/~yatabe/mexico/palenque.htm)
- (41) 国民年金の未納分が強制徴収されるかもしれないそうです。読売新聞より。(http://junji.complex.eng.hokudai.ac.jp/~ishioka/memo/)
- (42) 「スコット、あれの翻訳権を押さえてこい。ブレインズの分析によれば、大森望が引き受けるにちがいないそうだ」  
(http://www.ltkyo.com/ohmori/dengon1900.html)
- (43) たかひいが言うには、社長さんは○○○○○のコンサートに行くに違

ないそうです (笑) (<http://www12.u-page.so-net.ne.jp/ba3/masae/2001new11.html>)

以上、伝聞のモダリティは「カモシレナイ」とは共起するが、「ニチガイナイ」とは共起しにくいことを見た。

#### 4. まとめ

本稿ではインターネットのホームページをコーパスとして、「カモシレナイ」と「ニチガイナイ」の異質性について考察した。その結果、「カモシレナイ」は当為表現や伝聞のモダリティと共起するが、「ニチガイナイ」はそれらと共起しにくいことが明らかとなった。こうした違いは、前者が話し手の認識を表す表現であるのに対し、後者は話し手の推量判断を表す表現であることに由来すると思われる。この点についてはさらに分析を進めていく必要がある。

#### 注

- 1) 仁田 (1991)、野田 (1984)、森山 (1989)、益岡 (1991)、宮崎 (1992)、中島 (1993)、森本 (1994)、劉 (1996)、安達 (1999) など。
- 2) 三宅 (1992、1993) は「カモシレナイ」を「可能性判断」、「ニチガイナイ」を「確信的判断」のように、異なるものとして分類している。

「可能性判断」：命題が真である可能性があるとして認識する。(三宅 1992 : 38)

「確信的判断」：命題が真であると確信する。(三宅 1993 : 38)

ただし、三宅が両者を「認識的モダリティ」(本稿の「真偽判断のモダリティ」に相当)の範疇で捉えているのに対し、本稿では「カモシレナイ」は「命題」と「モダリティ」の二つの性質を合わせ持つと捉えている点で違いがある。本稿では「カモシレナイ」を「カモシレナイ<sub>P</sub>- $\phi_M$ 」と分析し、命題を表す「カモシレナイ<sub>P</sub>」の部分とモダリティを表す「 $-\phi_M$ 」の部分からなると考える(杉村 2001b)。

- 3) この点については杉村 (2001c) でも論じている。
- 4) 「ヨウカモシレナイ」の「ヨウダ」は様態の意味で使われていると考えられる。

(i) 一人になると、、、様々な、鍵を使って心のトビラを開く、、。それ

は、心の部屋に、新鮮な空気をいれるようかもしれない。

(<http://www.nmt.ne.jp/~okae/kokoro.html>)

- (ii) 恋は嵐のようかもしれないが人生はそうであってはいけないのかもしれないって考えさせられた。

(<http://www.infomadonna.ne.jp/~nene1/arasi.htm>)

- 5) 「カモシレナイラシイ」と「ニチガイナイラシイ」には、以下のように伝聞の意味で使われていると思われるものも含まれる。これは「ラシイ」が真偽判断を表しているのか伝聞を表しているのかが必ずしも容易に判別できないためである。

- (i) 飛行機の中でポプの話だとこれからの処理が大変かもしれないらしい。  
(<http://www.melma.com/mag/47/m00043847/a00000004.html>)

- (ii) 彼いわく、多分地下鉄の中ですられたに違いないらしい。

(<http://www.geocities.co.jp/Berkeley-Labo/1139/france.html>)

- 6) 「ソウカモシレナイ」や「ソウニチガイナイ」の「ソウダ」は、連用形について「兆候や様相の現れ」を表す「ソウダ」（「雨が降りソウダ」の「ソウダ」）である。

## 参考文献

- 安達太郎 (1999) 『日本語疑問文における判断の諸相』, くろしお出版。
- 木下りか (1999) 『文末における「真偽判断のモダリティ」形式の意味』名古屋大学博士学位論文。
- 杉村 泰 (2001 a) 「ヨウダとベキダの主観性」『名古屋大学言語文化論集』第22巻第2号, pp.59-73, 名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科。
- (2001 b) 「カモシレナイとニチガイナイの異質性」『言葉と文化』第2号, pp.79-93, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻。
- (2001 c) 「現代日本語における文末表現の主観性 ——ヨウダ, ソウダ, ベキダ, ツモリダ, カモシレナイ, ニチガイナイを対象に——」『世界の日本語教育』第11号, pp.209-224, 国際交流基金。
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版。
- 中畠孝幸 (1993) 「確かさの度合い ——カモシレナイ・ニチガイナイ——」『三重大学日本語学文学』第4号, pp.13-20, 三重大学日本語学文

学会.

- 仁田義雄 (1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房.
- 野田尚史 (1984)「～にちがいない/～かもしれない/～はずだ」『日本語学』第3巻第10号, pp.111-119, 明治書院.
- 益岡隆志 (1987)「モダリティの構造と意味 —— 価値判断のモダリティをめぐって——」『日本語学』第6巻第7号, pp.30-40, 明治書院.
- (1991)『モダリティの文法』くろしお出版.
- 三宅知宏 (1992)「認識的モダリティにおける可能性判断について」『待兼山論叢日本学編』第26号, pp.35-47, 大阪大学文学部.
- (1993)「認識的モダリティにおける確信的判断について」『語文』第61輯, pp.36-46, 大阪大学国語国文学会.
- 宮崎和人 (1992)「現代日本語の判定文について」『広島修大論集 人文編』第32巻第2号, pp.35-63, 広島修道大学人文学会.
- 森本順子 (1994)『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版.
- 森山卓郎 (1989)「認識のムードとその周辺」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』, pp.57-74, くろしお出版.
- 劉 婧 (1996)『陳述副詞の研究 —— 話し手の確信度を表す副詞を中心に——』名古屋大学修士学位論文.